

平成30年度

# 事業報告

平成30年4月 1日から  
平成31年3月31日まで

公益財団法人日本習字教育財団

## 目 次

(平成30年度事業報告)

一. 書道の通信教育及び実習指導 .....	1
1. 通信教育.....	1
2. 実習指導.....	3
3. 書道用具の頒布.....	3
4. 学習希望者並びに継続学習者の支援 .....	3
5. 表彰.....	4
6. 創立65周年記念事業の実施.....	4
二. 書道に関する展覧会の開催 .....	4
1. 書道展の開催.....	4
2. 席書大会の開催.....	6
三. 書道に関する機関誌その他の出版物の発行.....	7
四. 文字資料その他文化資料の調査研究と展示公開.....	7
1. 書道文化に関する調査研究.....	7
2. 世界各国の文字資料その他文化資料の収集及びその展示公開 .....	7
3. 教育・文化施設の運営.....	8
五. 書道に関する教育・研究機関への助成 .....	9
六. その他本法人の目的を達成するために必要な事業.....	10

## 一. 書道の通信教育及び実習指導

### 1. 通信教育

#### (1) 教材

各コースそれぞれ教材及び教師用指導書「教師月報」を配布した。通信教育受講生向け機関紙「日本習字だより」と「たのしい習字」を毎月発行した。

#### (2) 学習方法

受講申込みの後、教材配本→学習後、課題提出→認定・添削、質問への回答→返送を1か月の学習サイクルとして行った。臨書部の添削については希望者のみ行った。また書写技能基礎講座、書道臨書講座については最終課題提出時に修了試験を行った。

#### (3) コース

No.	通信教育の名称	期 間
1	書写技能基礎講座 [楷書編] (文部科学省認定)	6 か月
2	書写技能基礎講座 [行書編] (文部科学省認定)	6 か月
3	書道臨書講座【楷書Ⅰ】(文部科学省認定)	5 か月
4	書道臨書講座【楷書Ⅱ】(文部科学省認定)	4～12 か月
5	書道臨書講座【隸書】	3～6 か月
6	日本習字漢字部	12 か月
7	日本習字かな部	12 か月
8	日本習字ペン部	12 か月
9	実用書道くらしの書	12 か月
10	日本習字墨画部	12 か月
11	日本習字臨書部	12 か月
12	日本習字幼児部	12 か月
13	日本習字小学1年	12 か月
14	日本習字小学2年	12 か月
15	日本習字小学3年	12 か月
16	日本習字小学4年	12 か月
17	日本習字小学5年	12 か月
18	日本習字小学6年	12 か月
19	日本習字中学1年	12 か月
20	日本習字中学2・3年	12 か月

(4) 日本習字模範揮毫DVDを頒布した。日本習字臨書部模範揮毫DVD(付録: 解説付拡大手本・条幅)を頒布・進呈した。「日本習字漢字部 条幅課題拡大手本19」、「日本習字漢字部 条幅課題拡大手本20」を頒布した。

- (5) 平成31年1月から3月の幼児部、小学部、中学部、漢字部、かな部、ペン部、くらしの書、臨書部の新入会者を対象とした教材「入門編（生徒手本課題集）」「入門編（成人手本課題集）」、学習指導書を発行した。期間を限定して認定添削を行った。
- (6) 資格認定
- ア. 段級位の認定
- (ア) 会員の課題出品に対して各コースそれぞれの基準に従って審査し、段級位を認定した。
- (イ) 漢字部昇段試験を実施した。  
受験有資格者に対し、昇段試験を7月に実施した。
- (ウ) 臨書部昇段試験を実施した。  
初段～五段（5月・9月・平成31年1月）  
六段位（7月）  
七段位（7月）
- (エ) 生徒部八段位昇段試験を実施した。
- イ. 「くらしの書」実力の認定  
「実用書道くらしの書」の前年度受講者で希望者に対し、実力認定試験【初級】・【中級】・【上級】を実施した。（4月）
- (7) 認定証の発行
- ア. 所定の段級位（墨画部は伝位）合格者に対し、本人の申請により段級位（墨画部は伝位）認定証を発行した。
- イ. 「くらしの書」実力認定試験の合格者に対し、本人の申請により認定証を発行した。
- (8) 免許状の発行  
免許状取得資格者に対し、本人の申請により免許状を発行した。
- (9) 合格之証の発行
- ア. 漢字部の六段位、七段位、八段位の合格者に対し、本人の申請により合格之証を発行した。
- イ. 臨書部の六段位、七段位の合格者に対し、本人の申請により合格之証を発行した。
- (10) 雅号之証の発行  
本人の申請により、雅号之証を発行した。

## 2. 実習指導

本法人研修施設及び全国各地域において実習指導を行った。また、創立65周年企画として3大学習会「条幅学習会、臨書学習会、書写学習会」を行った。講座名、受講者数は次の通り。

- (1) 伊都の里研修所 通年コース（専攻科、かな専科、日曜条幅教室）ほか
- (2) 東京研修所 通年コース（漢字部講座A・B・C・D）ほか
- (3) 沖縄研修所 通年コース（漢字部講座A・B・C）、条幅講座、研究講座、かな講座
- (4) 地方講習会 全国各地で実習指導を行った。
- (5) 3大学習会 全国各地で実習指導を行った。

## 3. 書道用具の頒布

会員に対し、書道の技能向上を図る上で最適な書道用具等を選定・推奨し頒布した。書道用具等は「選定品」「推奨品」「頒布会品」に区分しそれぞれ目的に応じて提供した。

### (1) 選定品の頒布

書道技能向上を目的とした通信教育各コースの学習において、課題の履修のため欠くことのできない書道用具（筆・紙・墨・硯等）及び硬筆用具（鉛筆・ペン・用紙等）を頒布した。

### (2) 推奨品の頒布

選定品以外に学習者からの斡旋要望または書道作品制作及び書道学習の履修に必要となる用具を頒布した。

### (3) 頒布会品の頒布

特別頒布会を実施し、文化祭、教室での作品展やイベント向けの書道用具・展示用具などの頒布会品を期間限定で斡旋した。また、新学期準備セールを行い文具、文房具、記念品等の頒布を行った。

ア. 「たなばた特別頒布会」 5月～7月

イ. 「かきぞめ特別頒布会」 10月～12月

ウ. 「新学期準備セール」 平成31年2月～3月

## 4. 学習希望者並びに継続学習者の支援

書道学習の機会拡大や継続学習の支援を目的に普及企画を実施した。

### (1) 「無料体験習字教室 DX」

習字体験学習希望者を対象とした無料指導イベントを開催する教室に、所定の案内チラシの進呈や新聞折り込み料補助、会場賃貸料補助等の運営支援を行った。

(2) 「お習字教室へ行こうキャンペーン」

企画参加教室におけるキャンペーン期間内の通信教育入会者に対し、習字用具進呈等の受講特典を付与した。また参加教室に対しては、生徒募集チラシの進呈等の運営支援を行った。

(3) 「中学部受講促進」

小学6年生の中学進学時期に、「行書」の先行学習（お試し出品）機会の提供や、中学部継続受講申込特典等の学習支援を行った。

## 5. 表彰

通信教育受講者の中から特に優秀な成績の者が表彰された。

文部科学大臣表彰〔文部科学省認定社会通信教育修了者表彰〕

講座名	書写技能基礎講座【楷書編】	表彰者	1人
講座名	書写技能基礎講座【行書編】	表彰者	1人
講座名	書道臨書講座【楷書Ⅰ】	表彰者	1人
講座名	書道臨書講座【楷書Ⅱ】	表彰者	1人

(主催 文部科学省・一般財団法人社会通信教育協会)

## 6. 創立65周年記念事業の実施

平成30年9月1日に創立65周年を迎え、これを記念して平成31年3月まで各種記念事業を実施した。

(1) 原田観峰作品集「観峰—瞬間（とき）の息吹—」発行

(2) 企画展示「原田観峰の書 観峰—瞬間（とき）の息吹—」

観峰館夏季企画展（四. - 2）、および観梅展（二. - 1）会場にて併催

(3) 生徒会員進呈グッズ 反射板ストラップ 8月発送

## 二. 書道に関する展覧会の開催

### 1. 書道展の開催

(1) 第10回観梅展の開催

成人会員・高校生および特待生会員を対象に作品を募集した。

ア. 募集方法 指導者・会員に募集要項などを配布し、機関紙「日本

習字だより」とホームページに開催告知を掲載した。

- イ. 募集期間 8月1日～9月20日
- ウ. 応募総数 3, 378点
- エ. 審査 観梅展審査委員会
- オ. 審査結果 観梅大賞40点他各賞
- カ. 作品発表 地区展覧会を9会場で開催した(いずれも平成31年)。

開催日	展名	会場
2月3日	名古屋展	ナディアパーク
2月10日	京都展	京都市勧業館
2月17日	鹿児島展	かごしま県民交流センター
2月24日	福岡展	福岡国際センター
3月10日	沖縄展	浦添市美術館
3月17日	広島展	広島県立広島産業会館
3月21日	仙台展	仙台国際センター
3月24日	東京展	国際ファッションセンター
3月31日	札幌展	札幌市民ギャラリー
計		

また機関紙とホームページに観梅大賞作品を掲載発表した。

(2) 第7回公募日本習字硬筆展の開催

硬筆学習への興味と意欲を喚起することを目的に広く作品を募集した。

- ア. 募集方法 書塾及び書道関係者などに募集要項を配布し、開催告知を小、中高生向け一般紙と機関紙、ホームページなどに掲載した。
- イ. 後援 文化庁、全国都道府県教育長協議会、全国高等学校長協会、全日本中学校長会、全国連合小学校長会、朝日中高生新聞、朝日小学生新聞、京都府、福岡県、その他報道機関81社
- ウ. 協賛 セーラー万年筆(株)、(株)トンボ鉛筆ほか3社
- エ. 募集期間 8月1日～9月20日
- オ. 応募総数 61, 146点
- カ. 審査 日本習字硬筆展審査委員会
- キ. 審査結果 大賞12点他各賞
- ク. 作品発表

小、中高生向け一般紙上に対象学年の特別賞受賞作品・受賞者氏名を、また機関紙とホームページに大賞受賞作品や受賞者氏名等を掲載した。大賞を含む特別賞受賞作品・受賞者氏名および入賞者氏名を印刷物として作成し応募者（団体）に配布した。

ケ. 東日本大震災被災地への寄付

震災復興支援の一環として出品料の一部を、「いわての学び希望基金」（岩手県）、「東日本大震災みやぎこども育英基金」（宮城県）、「東日本大震災ふくしまこども寄附金」（福島県）に寄付した。

2. 席書大会の開催

(1) 第19回日本習字全国席書大会の開催

小学生以上の会員を対象に参加者を募集し、全国7会場で実施した。

ア. 募集方法 募集要項を会員に配布し、開催告知を機関紙に掲載して参加者を募った。

イ. 後援 北海道教育委員会 愛知県教育委員会 兵庫県教育委員会 福岡県教育委員会 鹿児島県教育委員会 鹿児島市教育委員会 沖縄県教育委員会 報道機関24社

ウ. 開催実績 (いずれも平成31年)

開催日	大会名	会場(開催地)
1月5日	東京大会	大田区産業プラザ Plo (大田区)
1月5日	神戸大会	神戸常盤アリーナ (神戸市)
1月5日	福岡大会	福岡国際センター (福岡市)
1月6日	名古屋大会	名古屋国際会議場 (名古屋市)
1月14日	札幌大会	札幌市厚別区体育館 (札幌市)
1月14日	鹿児島大会	鹿児島アリーナ (鹿児島市)
1月14日	沖縄大会	沖縄市体育館 (沖縄市)

エ. 審査 日本習字全国席書大会審査委員会

オ. 審査結果 大賞9点他各賞

カ. 作品発表

(ア) 機関紙に席書大賞・準大賞・審査委員会奨励賞を掲載発表した。

(イ) 席書大賞、席書準大賞および鹿児島県の後援関係賞(鹿児島大会のみ)の受賞作品を第10回観梅展地区展会場で展示した。



### 三. 書道に関する機関誌その他の出版物の発行

補助教材として出版物を発行した（別表1）。主な出版物は次の通り。

- (1) 漢字部昇段試験受験用教材として「日本習字漢字部 昇段試験受験ガイド 別冊過去の試験問題付き（平成30年度実施）」を発行した。
- (2) 幼児・児童向け教材として「はじめてのひらがな」、「だいすき！ひらがな」、「ひらがな練習帳1（五十音）」、「ひらがな練習帳2（ことば）」、「カタカナ練習帳」を発行した。
- (3) 漢字学習教材として日本習字漢字学習シリーズ①「1年生の漢字練習」を発行した（ほか、2年生～6年生まで）。

### 四. 文字資料その他文化資料の調査研究と展示公開

#### 1. 書道文化に関する調査研究

博物館観峰館の収蔵資料の中から中国書画をはじめ、日本の教科書など文化教育に関する資料を分類整理し調査研究を行った。

- (1) 関西中国書画コレクション研究会への参加  
近代中国書画に関して他の博物館及び大学等研究機関との連携による共同研究に参加した。加盟館9館：京都国立博物館ほか
- (2) 収蔵資料のデータベース化  
収蔵資料の内容・作者・法量・制作年などをデータベース化した。（企画展展示資料の他、中国書法、中国絵画等）
- (3) 収蔵資料の修復を行った。
- (4) 夏季企画展「日本習字創立65周年記念 原田観峰の書 観峰—瞬間の息吹—」の図録を制作し頒布した。
- (5) 冬季企画展「平山郁夫—引き寄せられた中国書画—」の図録を制作し頒布した。

#### 2. 世界各国の文字資料その他文化資料の収集及びその展示公開

- (1) 館内常設展示（主な展示資料）
  - ア. 近代中国の書画、中国の文字資料、復元石碑
  - イ. 「避暑山荘」・「三希堂」の復元資料
  - ウ. 原田観峰記念室を常設展示として公開した。
- (2) 館内企画展示を下記のとおり実施した。

	会 期	名 称
1	4月14日～6月24日	春季企画展「点は墜石のごとく」
2	7月7日～9月9日	夏季企画展「日本習字創立65周年記念 原田観峰の書 観峰―瞬間の息吹―」
3	9月22日～11月18日	特別企画展「雪野山古墳の全貌」
4	平成31年2月1日～3月21日	冬季企画展「平山郁夫―引き寄せられた 中国書画―」
5	平成31年2月1日～3月21日	五個荘地区共催展「商家に伝わるひな 人形めぐり・切り絵作家 奥居匡 動物 たちのひな祭り」

### (3) 館外展示

「日本習字創立65周年記念 原田観峰の書 観峰―瞬間の息吹―」の展示を第10回観梅展地区展9会場において行った。

## 3. 教育・文化施設の運営

博物館観峰館の施設運営並びに館内で各種体験学習教室、各種イベントを開催した。

### (1) 概要

- ア. 開館日 4月14日～12月26日  
平成31年1月4日～3月21日
- イ. 休館日 毎週月曜日（祝日の場合は翌日）  
展示替え期間（4月1日～13日、9月11日～21日ほか）  
年末年始休館（12月27日～平成31年1月3日）
- ウ. 開館日数 258日
- エ. 入館料 一般500円、高校・大学生300円、小・中学生無料  
（団体割引、その他各種入館割引を実施）  
特別企画展は一般1000円、高校・大学生800円、  
小・中学生無料
- オ. 入館無料日 5月5日こどもの日ほか、年間計6日

### (2) 書道に関する体験学習教室の開催

瓦当拓本教室、石碑採拓教室などを適宜開催した。

(3) 各種イベントの開催

ア. 企画展に関連して講演会を開催した。

9月29日「三角縁神獣鏡と雪野山古墳」福永伸哉氏（大阪大学文学研究科文化形態論専攻教授）

イ. ギャラリートーク&ミニコンサート 3回

ウ. 体験イベント「夏休み子ども博物館」

エ. 土曜講座 7回

オ. 篆刻講座 1回

カ. 第23回観峰館かきぞめ大会

キ. コンサート等の来館者誘致イベント 3回

(4) 博物館学芸員実習生の受け入れ

博物館学芸員養成の一環として実習希望学生に対して、資料取扱法・作品調査・教育普及などの実習指導を行った。（同志社女子大学生生活科学部生1人）

(5) 地域及び教育機関と連携した学習・研修機会の提供

ア. 淡海書道文化専門学校

イ. 大東文化大学

ウ. 安田女子大学

エ. 東近江市立五個荘中学校

(6) 展示資料解説

各種団体・学校・グループ来館者に対し館内の案内、資料解説を行った。

## 五. 書道に関する教育・研究機関への助成

(1) 「公益財団法人日本習字教育財団 学術研究助成運営委員会」を開催した。

(2) 公募・助成の学術領域を5項目に定め、審査員に外部有識者を招聘し研究を公募した。

(3) 第5回学術研究助成の成果論文の提出を受け、「査読委員会」による成果論文の査読を行った。

(4) 第6回学術研究助成事業にあたり、関係機関へのポスター及び募集要項を配布し、書道雑誌への掲載、書道学会での告知、ホームページへの掲載を行った。その結果、第6回学術研究助成の対象は第2領域2件、第3領域1件、第5領域1件であった。

## 六. その他本法人の目的を達成するために必要な事業

### (1) 書道を中心とした国際交流

- ア. 公益財団法人京都市国際交流協会とのコラボ事業として、京都市近郊在住の留学生向けに書道体験ワークショップを開催した（11月4日・京都市国際交流会館）。
- イ. 習字の基礎知識の紹介や簡単な指導ができるような英語版の冊子（電子版）を4月にホームページで公開した。

### (2) ホームページの制作・更新

デザインイメージや各ページの更新を行い、SNSを活用して活動やイベント等の告知、記事発信を行った。また通信教育受講申込・教室検索等の利用促進やPRのためにインターネットディスプレイ広告を実施した。

### (3) 展覧会の後援及び書道展の支援

福岡矯正管区文芸コンクールをはじめ各種団体等が実施する書道展覧会等に対し、後援・審査等の支援をした。

### (4) 「習字の日」事業の実施

周知活動の一環として次のことを行った。

- ア. 会員向けに、「手紙をかこう」企画を実施した。また活用事例を機関紙で広く紹介した。
- イ. 一般向けに、SNSの活用等によりPRと周知を図った。